

命は多くの人に支えられているもの

小児がんで娘亡くした鈴木さん 生徒570人に生の尊さ訴え

飾磨東中



長女景子ちゃんの写真を見せながら、命の尊さを訴えかける鈴木中人さん＝姫路市飾磨区三和町

小児がんで6歳の長女を亡くした鈴木中人さん(66)は愛知県IIによる講演会が、飾磨東中学校(姫路市飾磨区三和町)で開かれた。「いのちの授業」と題し、長女の闘病生活などを振り返りながら、家族の絆や一生懸命生き抜くことの大切さを、全校生徒約570人に訴えかけた。

鈴木さんは1995年、長女・景子ちゃんを神経芽細胞腫という小児がんで亡くした。その経験からNPO法人「いのちをバトンタッチする会」を立ち上げ、自身の体験を伝える講演活

動を続ける。著書「6さいのおよめさん」は、小学校道徳の教科書にもなった。景子ちゃんの病気が分かったのは3歳のとき。医師から「がんだ」と告げられたときは現実味がなく「どうして景子ちゃんが、どうして俺がこんな目に」という感情があふれたと打ち明けた。

鈴木さんは生前の景子ちゃんの写真を見せながら、輸血の際に血液のパックに「ありがとう」と手を合わせたことや、亡くなる数カ月前まで「学校に行つたとき困るでしょ」と力を振り絞ってえんぴつをにぎり宿題をしていたことを紹介。最期は、景子ちゃんが憧れていた白いドレスの花嫁姿で天国へ送り出したことなどを語った。

体育館はしんと静まり返り、涙を流しながら聞き入る生徒もいた。鈴木さんは「命は自分だけのものではない。家族がつなぎ、多くの人に支えられているものだ」と心に刻んでと呼びかけた。3年の中西志奈さん(15)は「病気の母を重ね合わせた。寄り添うだけでもその人のためになると知り、日頃から私がそばにいるよということ伝えたい」と話した。

(橘高 声)